

銘柄分析レポート：四季報春号の注目銘柄（2024年版）

1 はじめに

このところ、会社四季報を通読して個別銘柄をピックアップする手法も、すっかり定着してきました。今や「四季報を読んでいて当然」という雰囲気すらあります。

ところで皆さんは、投資家のタイプによって四季報を読む際の視点が全くと言っていいほど異なることをご存じでしょうか？

トレーダーと長期投資家の主な違いは次の通りです。

【トレーダー】

- 四季報を読んだ同業者が「思わず飛びつきたくなる」銘柄を一足早く買う
- 通読はスピード勝負。四季報を入手（個人の定期購読者には前日の夕方に届く）してから翌日の場が開くまでに「どの銘柄を買うか」決めておけるのが理想
- 四季報に好材料が書かれており、目先の業績が良く、チャートが上昇トレンドの銘柄を選ぶ
- P E Rは低いに越したことはないが、多少高くても気にしない

【長期投資家】

- 長期投資に値する銘柄を見つけるための手がかりとする
- 通読はマイペースでOK。銘柄をピックアップした後、さらに決算書の分析を行い、そのうえで定性的な強みを調査するために時間がかかる
- 四季報に悪材料が書かれており、目先の業績が悪く、チャートが下降トレンドの銘柄のほうがむしろ好ましい
- ミスプライシングの可能性を秘めている、P E Rが低く、配当利回りの高いものを選ぶ

このように四季報通読といっても、投資家のスタンス次第でほとんど別の見方をしていることになります。自分の軸がぶれないように留意したいものです。

今月号の銘柄分析レポートでは、長期投資家の視点に基づき、次の手順を踏んで選んだ「四季報春号の注目銘柄」2社を取り上げました。

- (1) 会社四季報春号を通読
- (2) 株価チャートを確認
- (3) 決算書、有価証券報告書で定量面を分析
- (4) グーグル検索などで定性面を分析